



浜家連 ニュース 12月号

第184号

平成27(2015)年12月1日発行

○発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会
事務局 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町1752番地
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階
電話 045(548)4816 FAX045(548)4836

**巻頭言 「10年間のグループホーム運営で学んだこと
～「親なき後にそなえて、お金より人を遺しましょう！」～ 副理事長 鷹野 薫**

1、自分のこと。

昨年までの私・・・飲酒、喫煙しない、健康器具を毎日利用、はちみつ系のサプリメントを飲んでいる。入院歴、手術歴なし。⇒他人は病気しても、自分はしない、と思っていた。

今年の私・・・3月労作性狭心症で入院、経皮的冠動脈ステント留置手術、同意書に初めてサインした。4月ギックリ腰。10月誤嚥性肺炎になり、点滴、就労禁止となる。

⇒自分も病気するんだ。

2、友人のこと。

高校の同級生、優秀で卒業生総代、勤め先も同じグループ会社、ゴルフ、麻雀、カラオケ仲間、渋谷の深夜族(25時はまだ今日のうち)。私との違いは、彼はヘビースモーカーでした。

3月肺癌で逝去、葬儀が何と私が入院した日(妻が代理出席)。いわゆる終括が完璧に出来ていた。葬式の段取りはもちろん、お墓の石碑には夫婦の戒名が刻んであった。告別式の会葬者に渡す「しおり」も用意されていて、「自分史と出席者へのお礼」が記されていた。「しおり」の最後のページの最後に、「鷹野さん ありがとう さようなら」と書いてあった。

⇒人はやはり病気になるもの、そしてその先は・・・・・・・・・・。

3、グループホーム(以下GHと略)の運営。

私は青葉区で平成17年3月から10年間グループホームの運営委員長(今はホーム長と云う)を務めています。コンセプトが4年

間で一人暮らしを目指す通過型GHなので、この10月末までに37名の方が入居し、30名の方が通過して行きました。

①一人暮らし(結婚含む)になった方 17名(57%)「経緯はドラマに満ちている」後述します。

②他のGHに移った方6名(20%)
身内が兄弟姉妹の代で、外国、関西等遠方に居住する方。合併症があり、常時介助が必要な方。

③実家に戻った方5名(17%)
二人で一人の様に仲の良い親子。大好きで大嫌いな親子、大嫌いで大好きな親子。適度な距離の親子関係を図るために入居して来た。二人とも、又GH職員も「このままではいけない」と思って努力したが、改善出来なかった。

私たちGHの力不足で誠に申し訳ない部分。今後の大きな課題となっているが、未だ手に余る状況です。

④入院2名(6%)

4、グループホームですること、していること。

①「地方から上京した大学生がアパートで一人暮らしをしている姿」をイメージして、練習する。

②生活スキルアップの練習
食事、調理、洗濯、整理整頓、掃除、通所、金銭管理、服薬、通院、寝る、起る、入浴する。

このため、食事当番、掃除当番、ゴミ出し当



番等をする。

③ コミュニケーション能力アップの練習

他の人と適度な距離を持ってつきあう方法。食事当番、掃除当番、ゴミ出し当番の順番を決る話し合い、毎日の入浴、洗濯機の使う順番決めなど、を通じて学ぶ。

特に、困った時SOSを出す方法、相手先を知り、試してみる。実際救急車を呼んだりして自然に学べる。

(この②と③の練習費用は総合支援法の「訓練等給付金」で横浜市と国が負担してくれる。入居総費用は、住居費、食事、その他で合計10から13万円以内)

5、一人暮らし(結婚含む)になった方々。

グループホームは区役所の紹介で入居することになっているので、本人を『誰が区役所につないでくれたか』が重要。17名のうち家族ルート11名(65%)、家族以外6名(35%)
家族以外の6名のルートは以下の通りです。

① 町内会の役員さん。

父親は積極的に町内会の役員を引き受け、公園掃除等に本人を連れて行っていた。

母、父の順に病死、ごみ屋敷化、本人は断薬で「エイリアンが攻めてくる」と騒ぎまわる。

父親と親しかった町内会の役員さんが区に通報し、入院先からGHへ。生保で入居したが、自宅を区とGHで協力して売却し、自費へ移行。いとこが身元引受人となって区内のAPで一人暮らし、オープンで農業アルバイト中。

② マンションの管理人さん。

母親と2人暮らし。母親は管理組合の役員の経験あり。病弱でゴミ出しが困難になったので、マンションの管理人さんの協力を得て、子供がゴミ出し出来るようにした。

母親入院、死去。管理人さんが、コンビニ弁当の安くなる時間帯を教えてくれ、水を必ず飲むように忠告。約2ヶ月一人で生きていた。この間管理人さんが区に通報。自費で入居したが、貯金が無くなったので、年金・生保へ移行。叔母が保証人となって区内のAPで一人暮らし、

作業所通所中。

③ 父親の趣味の仲間。

父親と2人暮らし、父親が骨折で急遽入院することになり、父親が碁会所の仲間に相談、碁会所の仲間が区に連絡、年金・生保で入居。父親が保証人となり、区内のAPに一旦住んだが、公営住宅に当選したので引っ越し、一人暮らし。作業所通所中。

④ 教会の牧師さん、

家族と折り合いが悪く、教会へ逃げ込んだ。教会の牧師さんが区に連絡、その牧師さんが身元引受人となってGHへ。年金・生保。牧師さんの説得で妹が緊急連絡先となって、保証会社の審査をパスし近隣区でAP暮らし。オープンでスーパーの品出しアルバイト中。

⑤ 入院先の主治医さん

18年間入院中で、病院から作業所に通っていた。病気は治まっているが身寄りも、家もなく退院出来なかった。主治医が他の病院に転職することになり、区に相談。身元引受人なしで入居をGHが承認し、年金・生保で入居。遠縁の方が見付き、緊急連絡先となってくれたので、保証会社の審査をパスして区内でAP暮らし。老人のデイケア利用。

⑥ 祖父の会社の部下

家族と折り合いが悪く、祖父のところで居住。祖父の会社でアルバイトをしていた。祖父が病気で倒れ、部下が一時社長代行となった。本人は混乱し、引きこもりに。祖父の部下が心配して区に相談、身元引受人を引き受けGHへ。年金・自費。その後、祖父への恩返しと、保証人となって近隣区でAPを借り一人暮らしへ。本人はアルバイトに戻った。

◎我が家の場合・・・浜家連の常任理事鈴木本陀理さん。作業所の元職員。

私が平成18年に浜家連の理事になり、理事会に出席したところ、隣に都筑区すずらん会選出の鈴木本陀理さんがおられ、新しく都筑区に出来る通過型のGHの運営委員長になると云われ、チラシを頂いた。



チラシを家に持って帰ったところ、子供が興味を示し、自分で見学に行き、申し込んだ。結果、19年1月に入居が認められたが、入居が認められるにあたっては、実は運営委員長の鈴木本陀理さんのご理解があった。(後日談)

19年3月に入居、その後いろいろ有り、子供の代わりに鈴木本陀理さんが警察に謝りに行ったこともあった。

22年3月に引っ越して、既に5年間近隣区のAPで一人暮らし中。給与・年金・生保で、福祉的就労をしている。電話は良く来るが、実家には年4回程度しか来ない。私も年2回ぐらいしか行かない。私からは電話しない。なぜなら何時か出来なくなる時がくるので慣れてもらうため。

肝心な時のSOSは親より、作業所の元職員に出す。親には言いにくいらしい。

6、GHの「見守り援助」の姿勢（家族も参考になると思います）

失敗から学んでもらう。倒れそうでも倒れるまで手を出さない。例えば、腹痛で救急車で入



院した場合。救急車を呼ぶことを学ぶ、なぜ腹痛になったかその原因と対応策を学ぶ。

本人と職員の我慢比べ⇒「見て見ぬふりをする」
7、10年間のグループホーム運営で学んだこと。

① 親と子の心配ごとは違う。

親⇒「私が死んだらこの子は生きていけるだろうか」

子⇒「親が介護状態になったら私はどうしたらいいだろうか」「私の親は私のことを親戚にも言っていない、親がなくなったら私はどうしたらいいだろうか」

② 人はいざと云う時には、生きるための力があり、とんでもない力が出せる。

③ いざという時、どこかに、誰か、必ず助けてくれる人がいる、世の中は捨てたものではない。

②と③は私たちGH関係者全員の信念です

④ 親は子供のことより自分のことを考え、お金を自分の老後のために使って、子供に迷惑をかけない様にする。

結論⇒「お金より、子供のことを気にかけてくれる誰かさん・人を遺すこと！」

フォーラム参加報告

Dブロックに参加して

あいの会 佐藤光信

平成27年度浜家連Dブロックフォーラムを10月3日(土)に港南公会堂(参加者171名)で開催しました。

午後1時の開会にあたり、浜家連理事長及びご来賓のお祝辞をいただき、第1部の「ボランティア愛の音楽会、港南童謡の会」は平成21年3月3日に設立された会員25名の音楽愛好家のグループです。主な活動先は、各地域のケアプラザ、老人ホーム、グループホーム等です。久しぶりに懐かしい童謡を大きな声で歌うことが出来たのではないのでしょうか。

第2部は、医療法人正和会日野病院院長の馬場

敦臣先生の「こころの問題～今日と明日～」の講演で、薬は更に進歩し、より少ない副作用で、持続性製剤等の新規治療薬の開発も進んでいます。当事者と日常の生活について、お薬はちゃんと飲んでいきますか、お薬はどのくらい余りますか、嫌いなお薬はありますか等、当事者と向かい合って時間を掛けて話し、また、社会参加を望む方には、人のためになることをする、会社の利益になる仕事はできますか、自尊心を高める等当事者の視点に立って、より良い『生活を送る』ことが出来ることを目指しております。

浜家連の動き（詳細は11月13日の理事会資料をごらんください。）

① 単会交流会について（*会長さんあてには「ご案内」をお送りしています。）

- ・開催日時 28年1月28日(木)1:30～ 3階 会議室 1 にて行います。
- ・参加は会長又は副会長もしくはそれに準ずる人 ・会議はグループ分けせずに全体で行う。
- ・提出資料…平成27年度の単会の活動記録(定例会のテーマ、参加者数、定例会以外の

活動および今後の予定。)

・A4 1枚にまとめて、12月22日(火)常任理事会までに事務局に提出してください。

②「医療費助成の拡充を！みんなのパレード2015」にご参加を！！

日時:12月10日(木) 関内南口集合 11:20

- ① 11:30 関内駅南口前、集会とリレートーク、ピラ配り、シール投票。
⇒リレートークは障害者連絡会の方及び浜家連が発言します。
- ② 12:15 パレード、馬車道を経由して遠回りです。県庁へ。
- ③ 12:45 県庁にてまとめの集会。
- ④ 13:15 県担当課への要請行動(秘書課にて行う場合もあり)。



前回のパレードの様子

浜家連ニュース アンケート結果について

事務局 中居

先日実施しました浜家連ニュースのアンケートには、173通の回答が寄せられました。皆様のご協力に感謝いたします。

アンケートの結果を見ますと「全く読まない」との回答はほとんどなく、多くの方に読まれていることがわかりました。記事では、「巻頭言」の関心が高く「いの一番に読む」「興味深く読んでいる」「5年10年先を考えて意見を発表している」などの回答が寄せられました。また、読みやすさでは「読みやすい」と「普通」との回答を合わせると89%となりましたが、「字が小さい」「紙面に余裕がなく読みにくい」などの回答も少なからずありました。

「今後記事にしてほしい事」「自由な記入欄」では薬や病気に対する情報、浜家連の動きについて、政府や市の動きについて、など様々な回答が寄せら

れましたが、病気回復までの苦労話などの体験談が多く望まれているようです。「会員さんの体験談は読みごたえがありました」との回答もあります。また「原稿をそのまま載せるのではなく、意味がわかるように校正しなおすことも必要。面白くない記事ははっきり校正、編集の段階でカットすべき」との厳しい回答もありました。パソコンで見ることのできる方は18.5%でした。紙で読まれている方が多いので引き続き紙で発行します。

今回のアンケートで、浜家連ニュースがおおむね好感を持って読まれていることが分り、安堵しているところです。これからも皆様のご期待に沿えるような浜家連ニュースを発行できますように頑張っていきますので、叱咤激励をよろしくお願ひします。

イベントのお知らせ

§ 1 市民精神保健福祉フォーラム (Aブロック)

日時 平成28年3月5日(土) 13:00~16:00(開場12:30)

会場 横浜市都筑区公会堂(都筑区庁舎内)

定員 600名 (事前予約不要 直接会場へお越しください)

内容 1部 シャロームの家雑技団による“ミニ演芸“

2部 講演「精神医療について思うこと」

～当事者・家族・精神科医の3つの立場を通して～

講師 夏莉郁子先生(やきつべの径診療所) **平成25年度に続いて3度目の登壇です。**

質問コーナー 詳しくお答えいただきます。

* バザー出店あります。

* 浜家連顧問社労士による障害年金相談窓口開設します。



編集後記

今年もあと少しです。日の暮れるのが早くなりました。寒さも厳しくなります。(事務局齊藤) 今年の時代小説では葉室麟の「散り椿」が印象に残りました。読んでみてください。

27年度のフォーラムはAブロックで終了です。3月5日は多くの方のご参加をお願いします。